

会員動向

本会代表理事の神立春樹岡山大学教授は、このほど『大学図書館図書資料論』を刊行されました。この著書に関して、同じ岡山大学の図書館職員の方から以下のような書評が寄せられましたので、紹介いたします。

—大学図書館の蔵書とは何か—
書評：神立春樹著『大学図書館図書資料論』

岡山大学附属図書館事務部長
森 岡 祐 二

本書は、一口に要約するならば、われわれ大学構成員の一翼を担う図書館員に対する警告の書であると同時に、大学というコミュニティーの構成員、とりわけ教育・研究の中核的担い手である研究者への、大学における蔵書に関する、大胆ともいえる問題提起である。

評者の独断的理解によれば、本書の中心的テーマは、第3章の冒頭に近い部分で述べられている、次のくだりに要約されている。すなわち、「図書資料購入のための予算がわずかしか図書館に配分されないという国立大学図書館に共通の問題」もさることながら、「それ以上に図書購入の財源はいわゆる研究費によるところの国立大学独特の予算制度の運用上の工夫がきわめて乏しい」。

ここには、一部局としての大学図書館というよりも、むしろ大学としてのトータルな蔵書構築のための、より適切な集書システム確立への志向が読みとれる。

図書関連予算の思い切った図書館への集中は果たして可能か？図書館員は専門職として選書、集書を担い得るのか？

こうした問題意識のもとに、著者は、アメリカの大学、公共図書館を訪問し、現状を自分の足で調査するとともに、アメリカにおける図書館の発展の歴史と、その社会的背景にまで論究する（第1、第2章）。さらに、ア

メリカにおけるライブラリアン研究の成果をふまえ、図書館員の地位、待遇の歴史の変遷過程をも考察している（第3章）。

後半の第4—8章は、著者の所属する岡山大学附属図書館に関する論稿である。文部省の『大学図書館実態調査結果表』による実態分析を通じて、人文社会科学系の教官の立場からの取書システム改善のための提言（第4章）をはじめとして、同館に所蔵される特色あるいくつかのコレクションの解題、および著者の経験にもとづくこれらの講義での活用事例が報告されている。

同館に久しく勤務するわれわれとしては、本学図書館のなりたちについて今更のように深く教えられると同時に、「蔵書の現状はミゼラブル」（『措 岡山大学附属図書館報』第19号所収扉紙の標題）という惨状から、一日もはやく脱却する努力を求められていることを痛感する。

〔参考〕

『大学図書館図書資料論』目次（抄録）

- 第1章 アメリカ大学図書館活動の一観察
—アメリカ大学図書館訪問記—
- 第2章 アメリカ公共図書館の印象
- 第3章 アメリカ図書館におけるライブラリアン—ライブラリアンに関する研究に学ぶ—
- 第4章 岡山大学附属図書館における取書の在り方—岡山大学における人文社会科学系の研究条件の整備の一環として—
- 第5章 岡山大学所蔵近世地方史料について
- 第6章 岡山大学所蔵大原農書文庫について
- 第7章 近代地域史研究史料としての府県統計書—大学図書館備え付けの意義—
- 第8章 農林業センサス原資料の収蔵

（御茶の水書房、1996年1月刊、A5版、

157頁、2678円）

社会経済史学会中国四国部会大会報告論題一覽 1996.2.現在
 Vol.は「社会経済史学」の巻・号数

年月日、会場	報告論題	所属	報告者名
1972年度 1973.1.28 広島大学	(1) ※ 報告論題不明 (2) (3) 広島鉄山の請負稼ぎ		井上 洋
1973年度 1974.1.20 松山商科大学	(1) 政商に関する諸問題 (2) 近世米価変動の地域比較 (3) 近世初期バルト海諸都市の貿易 (4) 広島綿糸紡績会社の成立過程 (5) 中世経済史上における国王—自由民学説成立の意義 (6) 明治中期における国民派の経済的基盤—高知県西南部の場合 (7) 幕末明治初年の芸予交易 (8) 近世割地制史論 (9) 日本化黨資本の確立 (10) 地方銀行の成立と地方産業—高松百十四銀行を例として— (11) 幕内における幕藩制の特質—流通史の面から見て—	広島経済大学 松山商科大学 松山商科大学 広島大学 山口大学 高知国立郷土文化会館 広島大学 広島大学 岡山大学 香川大学 大阪大学	己勝松志美 正 清武 岡橋嘉田草 辻岩比千秋 松 豊 岡田野野丹 伊作
Vol.40.6			司三水巳博 寛 春克正 洋太郎

Vol.は「社会経済史学」の巻・号数

年月日、会場	報告論題	所属	報告者名
1974年度 1974.9.29 山口大学	<p>(1)近世初期ハンザ商業の一動向—Stralsund, Rostoch, Wismarの貿易を中心として— (2)近世部落支配政策の展開とその背景—徳蘭藩の場合を中心として— (3)整武隊訴訟事件について (4)チャーチスト運動とマルクス・エンゲルス (5)プロイセン農民解放と農民運動 (6)創世期の徳軍上層部の傾敗と水兵の自然発生的のたたかい (7)電力国家管理の過程 (8)耐火レンガ工業の成立 (9)「自由貿易における帝国主義」研究の再検討</p>	<p>松山商科大学 山口大学</p>	<p>松久男 順茂子 介浩 清昭 暢秀 トヨ祥 藤好田 賀川本 植原下 比三 古及山 祐須山</p>
1975年度 1976.1.18.19 香川大学	<p><日本経済史部門>(1)来島村上氏の興亡 (2)清良記(七巻親民鑑月集)について (3)長州藩経済政策と越前会所 (4)宝暦期徳島藩の財政事情 (5)文政三年波止浜塩田騒動の全貌 (6)天保期徳島藩における救米制度をめぐって (7)阿波上郡地方の農村と農民意識 (8)巖波沖の捕鯨業 (9)近世塩業の構造 (10)地主手作より寄生地主へ—明治前期高知平野の一例— (11)産業革命期における都市秩序の再編 (12)戦時体制下の企業立地—三菱重工業の広島工業立地— (13)地方における電力資本の形成 <西洋経済史部門>(1)リチャード三世の経済政策 (2)スウイング革命の社会経済的脈絡 (3)アメリカ革命におけるトッブエリートの交替 (4)二十世紀初頭ドイツ電気工業における労働問題 (5)産業理論の方法について—その代表的見解と若干の問題点—</p>	<p>徳島県教育研修S 広島大学 広島大学 広島大学 滋賀大学 ND清心女子短大 広島大学 広島産業短大 京都大学</p>	<p>馬純治 一郎 啓男 作文 吉善 志郎 夫浩 見生 絳 和孝 国一 昭才 俊直 則末 常武 洋一 比左 忠幸 上藤 川好 山橋 坂藤 辺川 内田 上野 下則 久保 原 村近 小三 片高 逢進 渡横 竹千 井尾 山武 今久 漆</p>

年月日、会場	報告論題	所属	報告者名
1976年度 1977.1.23 岡山大学 Vol.42.6	(1)九州武士の東上について (2)アリマス植民地の開拓・植民の経緯と、これを経済的側面より眺めて (3)広島藩領の米榷変動 (4)天保期徳島藩における諸階級の動向 (5)産米改良政策の展開と農民運動—広島県を事例として— (6)「大正デモクラシー」期における戸数割闘争の展開 —岡山・山口県下町村の事例をもとに— (7)北海道稲作農業論 (8)大規模畜産古の建設と農家経営 (9)日本経済のインフレーション権権にかんする一考察 (10)両大戦間の金融構造	広島史学会 広島経済大学 松山商科大学 徳島市立高校 広島県史編纂室 岡山大学 岡山大学 岡山大学 倉山市老田小学校 法政大学	由郎勝博昭次芳基雅充 忠一正忠正伸敏 中島橋本玉本本辺田田 社河内 岩松児坂定渡藤伊牟田
1977年度 1978.1.22 高知大学 Vol.43.6	(1)香我部代の領主制下における「坂の者」について (2)阿波藩における益田豊後事件について (3)土佐における細頭の研究 (4)帝國海軍内反軍反戦のたまたかい (5)岡山県における地主制の動向—朝鮮進出地主藩手家の事例— (6)「革新官僚」の経済思想 (7)「鉄鋼業第一次合理化計画」について (8)総合商社の源流鈴木商店 (9)毛沢東思想の消長とその歴史的評価	鷹ヶ池中学校 徳島大学 高知学芸高校 広島県社会 運動史協議会 清心女子高校 五日市中学校 広島興産 神戸大学 広島女子大学	友央楼 茂昭憲照男二 義胤城 辰利泰芳誠 田躍野 本元中田 堀 武石矢 山森田池桂今

年月日、会場	報告論題	所属	報告者名
1978年度 10月10日 広島経済大学 Vol.44.6	<p>第I部 共同報告 両大戦間の経済史的意義—広島県下の実態にそくして—</p> <p>(1)問題提起 (2)地域開発と産業構造の変化 (3)広島県下諸銀行の地方的合同 (4)戦間期における中国地方の電気事業 (5)慢性不況下の海軍工廠労働力について</p> <p>第II部 一般報告 (1)十五世紀英国における辺境貴族の財政—スタフオド家バツカンガム公の場合— (2)十七世紀後半のフランスにおけるフィナンシエと貿易会社 (3)明治二十五年十一月「軍艦千島」運搬事件の顛末 (4)日本資本主義成立期の都市下層論とその課題 (5)ラテン・アメリカの大土地所有制と原住民共同体</p>	<p>広島大学 呉市史編纂室 国泰寺高校 広島大学大学院 広島大学</p> <p>ノートルダム清心女子短大 広島経済大学 松山市 岡山大学大学院 広島大学</p>	<p>衛志洋志 著 武 正常 橋田上藤 内 高千井佐竹 尾野井田野 平松興宮 章雄 子二 寿敏 須啓</p>
1979年度 1980.1月20日 徳島大学 Vol.45.6	<p>(1)徳島津駅路寺制の研究 (2)幕末徳島藩民衆史の課題 (3)芸備両国における近世民制の成立 (4)阿波富田荘の耕地分布について (5)専売制度下の煙草耕作の実態 (6)日露戦後徳島における工場場の発達 (7)高島葉之の機能的國家論についての的方法論的考察 (8)戦後経済統制思想の—考察</p>	<p>四国学院大学 徳島市立高校 広島県史編纂室 徳島地方史研究会 清心女子高校 広島商工会議所史 編纂室 広陵高校</p>	<p>一郎 博 治 司 昭 文 和 昭 作 清 辰 弘 明 利 憲 好本井家元内中 三松土福森井田 田</p>

年月日、会場	報告論題	所属	報告者名
1980年度 11月23日 鳥取県立博物館	(1)鳥取藩の在方支配 (2)近世前期鳥取藩の御借米制度 (3)毛利家奉勅討伐論について (4)明治維新政府の経済政策と由利財政 (5)桑田熊蔵の人と経済学説 (6) (未定) (7)芸備二藩における太政官札の流通政策 (8)満州鉄鋼業と日本の総力戦体制 (9)苦悶する都市 (10)現代日本の物価上昇機構 - 1970年代の局面 - (11)アメリカ合衆国憲法成立時の社会経済的条件 - 1つの仮説 -		司三久己郎二洋郎夫雅見 敬洋暢正廬四誠 俊正伸忠 本崎田岡泉堀 上本井田則 坂浜広辻和今井松藤篠武
1981年度 10月4日 島根大学 Vol.47.6	(1)松江藩領における銭遣い (2)高度成長期における島根の労働運動 (3)松江藩の鉄山政策と製鉄技術 (4)ハントリーー七世の財政政策 (5)独占価格論への一視点 (6)天領支配と石見銀山 (7)幕末鳥取藩藩政改革論 - 安政改革を中心にして - (8)十九世紀末におけるドイツ電機工業労使関係の展開	松山商科大学 島根大学 広島県史編纂室 山形大学清心女子短大 島根大学 石見郷土研究会 広島大学大学院 佐賀大学	勝之治夫 隆作比左夫 橋村井野 岩木土尾 仙原北今 久仁男 久童秦幸生

年月日、会場	報告論題	所属	報告者名
1982年度 10月2.3日 松山商科大学 Vol.48.6	(1)伊予国開発掘によせて (2)中世後期伊予近海の水運 (3)家中渡し村夫について—宇和島藩の場合— (4)阿波の儒学とその政治的背景 (5)近世芸備における宿駅制度と宿駅経営の実態 (6)徳川後期における阿波藍商の蓄積構造 (7)明治後期における豪農の農業経営 (8)広島城下近郊農村における地主経営 (9)一七世紀ヨーロッパのアジア貿易 (10)第一次大戦とアメリカ資本主義	今治史談会 愛媛県史編纂室 伊予史談会 徳島地方史研究室 広島県史編纂室 愛媛大学 城ノ内高校 広島県史編纂室 松山商科大学 岡山大学	才一郎 山内純生 片山孝武 近藤武雅 藤沢和憲 野石雅幸 石木桂勝 木田利夫 田川一利
1983年度 11月19.20日 広島大学 Vol.49.6	(1)広島藩における藩札発行と物価の動向 (2)領事報告からみられた出稼移民の実態 (3)両大戦間の企業誘致と地方自治体—広島県大竹地区を例として— (4)ヘンリー八世の財政政策 (5)豊臣期柳川立花家家臣団の成立 (6)徳島県における融和運動 (7)明治前・中期讃岐在来糖業の一特質 (8)朝鮮戦争期の広島における平和運動 (9)中国農村社会の変貌—最近の人民公社の実態—	広島県史編纂室 広島県史編纂室 呉市史編纂室 山口大学 徳島地方史研究会 四国学院大学 広島県史編纂室 広島大学	勇昭志 正武比左夫 夫義二修男 忠忠俊浩文 藤沢玉田 野村知原 林 児千尾 木武岡 藤小

年月日、会場	報 告 論 題	所 属	報 告 者 名
1984年度 10月13、14日 山口大学 Vol.50.6	10月13日 (1)中世禮札論 (2)近世後期在町における豪商成立と展開過程 (3)峰須彌氏の阿波入部と兵農分離過程 (4)ドイツ農業革命-シュユ-ベルト・フォン・クレフェルトとクロバーパー- 10月14日 (1)岡山藩初期の刑政 (2)永田藩兵衛と藩史編纂事業 (3)ナチス突撃隊と「政治的兵士」 (4)五代友厚とその人脈	広島県史編纂室 広島大学大学院 四国学院大学 山口大学 山口大学 山口県文書館 山口大学	明 広 順 輝 寛 一 井 山 好 川 中 三 及 田 中 崎 広 岩 W・R・ネルソン
1985年度 11月31日 - 12月1日 香川大学 Vol.51.6	11月30日 (1)日系企業による技術移転の諸側面 (2)長州藩経済政策と藩札 (3)由利の殖産興業政策 (4)阿大戦間期における徳島県の小作争議-「協調体制論」との関連において- 12月1日 (1)織政の持船の変遷-小豆島の平野屋を例として- (2)近世都市の成立と産業技術-広島城下町を事例として- (3)徳島県の自由民権運動-政党・結社の動向を中心に-	広島大学 山口大学 広島経済大学 徳島文理高校 瀬戸内施歴史民俗 資料館 広島女子大学 徳島文理高校	善 治 巳 志 常 国 正 正 内 川 岡 藤 竹 小 辻 佐 夫 治 一 久 作 智 山 井 田 徳 土 増

年月日、会場	報告論題	所属	報告者名
1986年度 12月6.7日 岡山大学	(1) 両大戦間期イギリスにおける産業立地の動向と地域経済の変化 (2) 船舶改善助成施設について - 1930年代のわが国造船政策の転換 (3) 戦間期農民運動の史的分析 - 岡山県を中心に - (4) 明治後期～大正期における商品流通と各駅の動向 - 『岡山県統計書』の分析を通じて (5) 戦間期日本資本主義の展開における遊廓 - 岡山県の場合 - (6) 現代フランスの階級構成と階級分類 (7) 15世紀後半の英国における政権交代の財政的要因 (8) 幕末維新期における長州藩の農業雇用労働 (9) 近世期における農村変貌と漁業問題	岡山大学 岡山大学研究生 広島大学 岡山県史編纂室 岡山大学学生 岡山大学 岡山大学 岡山教育大学 広島大学大学院 岡山県史編纂室	葛西 元 間藤 森 上川 兼 谷有 在 佐 杉 尾 尾 定 和 之 雄 久 一 一 夫 弘 学 大 美 正 宣 雄 規 比 左 夫
1987年度 11月28.29日 高知大学 Vol.53.6	11月28日 自由論題 (1) 文明開化期における日本の知識人層 (2) ラテンアメリカにおけるスペインの原住民政政策 11月29日 自由論題 (1) 郷友会の成立 共通論題 - 資本主義確立期の高知県における社会経済事情 (2) 日本資本主義確立期における高知県の産業経済的位置と構造 (3) 日本資本主義確立期の高知県における農村民の生活変容 - 高知市近郊朝倉村の場合 - (4) 日本資本主義確立期の高知県の一村における農村民の生活状況 - 幡多郡入野村の場合 -	広島大学大学院 広島大学 高知大学 岡山大学 岡山大学研究生 岡山大学大学院	張 野 三 男 宮 啓 三 春 樹 竹 永 立 安 広 神 立 渡 稔 徐 徐

年月日、会場	報 告 論 題	所 属	報 告 者 名
1988年度 11月26.27日 広島経済大学 Vol.54.6	11月26日 (1)中世ヨーロッパにおける結婚と女性—D.Herlihyの研究によせて— (2)政藩からみた近世初期の幕藩関係—取次と蘭次を中心に— (3)戦前日本の食料・米価政策—原内閣を中心に— (4)トルコ革命におけるイスマラム神祕主義教団(タリールカ)の禁止をめぐって— (5)近世讃岐農村における農民金融の—事例 11月27日 (1)上海における「店員傭商」問題と中国国民党—商民協会から工商同業公会へ— (2)安芸国竹原塩田にみる近世塩業の成立過程 (3)西ヨーロッパにおける貨幣経済進展の一つのプロセス—フランスの事例について—	広島経済大学 山口大学 松山商科大学 瀧心女子高校 香川大学 広島大学 赤穂高校 広島経済大学	菜穂子 二弘之 治 肇 昭一 誠 達 宏 正 俊 著 末田川山植 金子畑瀬
1989年度 10月14.15日 鳥取県立博物館 VOL.55.6	10月14日 (1)鳥取藩元文一揆の構造 (2)幕末期長州藩における豪農の農業経営 (3)明治期における綿作の衰退 10月15日 (1)徳島県における協調組合の成立と展開 (2)植民協会の成立とその活動 (3)生産性向上運動をめぐる労使間の論争	鳥取大学 呉工業高等専門学校 岡山大学大学院 九州共立大学 鈴峯女子短大 広島大学大学院	敬 司 弘 士 本 川 田 正 志 尾内 藤 正 正 昭 佐見 玉 正 正 昭 Mark Chang
1990年度 11月17.18日 鳴門教育大学 Vol.56.6	11月17日 (1)正徳元年朝鮮使福山柄の津歴史的ならびに今日的意義 (2)英連邦占領軍の日本進駐—反省と政策の推移を中心として— 11月18日 (1)戦後日本における産業構造の変化と女子労働力の変容	元広島大学 呉市史編纂室 広島大学大学院	夫 志 正 武 藤 井 田 復 傑 千 苑

年月日、会場	報告	論 題	所 属	報告者名
1991年度 11月9、10日 島根大学 Vol.57.6	11月9日 (1)協定会設立の過程 (2)小集団活動における日本の経営の歴史的特質 (3)日本近代化過程における在来産業-重要輸出品としての表样真田を事例として- 11月10日 (1)十九世紀ロンドンにおける広域的都市改善事業の展開 (2)高度成長期における消費生活の実態と生活意識との関連についての-考察 (3)女子労働の参加率の推移をめぐる国際比較 (4)戦後農業集落の変貌-「農業集落調査」にもとづく検討-	<p>11月7日</p> <p>(1)エリザベス一世時代の戦争と経済-アルマダの経済的背景- (2)明治期における地方紡績と地域経済-松山紡績を中心として- (3)伊予鉄道の成立とその性格-明治期地域経済との関連を中心として- (4)一九三〇年代中国における政府と企業家 (5)英連邦占領軍の形成過程 (6)日本における家電製品の普及要因-中国における家電産業の発展のために- (7)両大戦間期における「科学的管理法」の導入過程</p> <p>11月8日</p> <p>(1)岡山県における「非日本人」労働力の移動-一九一〇-一九四七年- (2)両大戦間期における労使協調の意義についての-考察 (3)日本における自動車メーカーと部品メーカーとの協力関係 -マツダの協力を中心に- (4)高度成長期以降における地域農業の担い手問題-岡山県川上郡川上町を事例として- (5)安川・松本財閥における労使協調経営-安川敬一郎の経営理念を中心として-</p>	<p>広島大学大学院 広島大学大学院 岡山大学大学院 鴨門教育大学 広島大学大学院 広島大学大学院 岡山大学</p> <p>鳴門教育大大学院 松山大学大学院 松山大学大学院 広島大学大学院 呉市史編纂室 松山大学大学院 広島大学</p> <p>岡山大学大学院 広島大学大学院 広島大学大学院 岡山大学大学院 九州共立大学</p>	<p>立 介 圭 玉 玲 振 生</p> <p>立 市 泰 彦 霖 復 傑 樹 春</p> <p>立 子 武 朝 君 亜 志 璇 衛 芳 武 璇 衛</p> <p>立 真 理 子 介 圭 正 鷹 克 正 志</p>
1992年度 11月7、8日 広島大学 Vol.58.6	11月7日 (1)エリザベス一世時代の戦争と経済-アルマダの経済的背景- (2)明治期における地方紡績と地域経済-松山紡績を中心として- (3)伊予鉄道の成立とその性格-明治期地域経済との関連を中心として- (4)一九三〇年代中国における政府と企業家 (5)英連邦占領軍の形成過程 (6)日本における家電製品の普及要因-中国における家電産業の発展のために- (7)両大戦間期における「科学的管理法」の導入過程	<p>11月8日</p> <p>(1)岡山県における「非日本人」労働力の移動-一九一〇-一九四七年- (2)両大戦間期における労使協調の意義についての-考察 (3)日本における自動車メーカーと部品メーカーとの協力関係 -マツダの協力を中心に- (4)高度成長期以降における地域農業の担い手問題-岡山県川上郡川上町を事例として- (5)安川・松本財閥における労使協調経営-安川敬一郎の経営理念を中心として-</p>	<p>鳴門教育大大学院 松山大学大学院 松山大学大学院 広島大学大学院 呉市史編纂室 松山大学大学院 広島大学</p> <p>岡山大学大学院 広島大学大学院 広島大学大学院 岡山大学大学院 九州共立大学</p>	<p>立 子 武 朝 君 亜 志 璇 衛 芳 武 璇 衛</p> <p>立 真 理 子 介 圭 正 鷹 克 正 志</p>

年月日、会場	報告論題	所属	報告者名
1993年度 11月6.7日 松山大学 Vol.59.6	11月6日 (1)英連邦占領軍の上陸と展開 (2)近世瀬戸内海における地方海運業の盛衰—伊予忽那島粟井船を中心として— (3)愛媛県南予地方における製糸業の成立過程 (4)第一次大戦前における日本器械製糸業の地域性 (5)中山間地域農業問題の変遷と課題—岡山県川上郡川上町を事例として— 11月7日 (1)産業革命期における私鉄山陽鉄道と地域の動向—主に玉島地域を中心として— (2)後発地域における蚕糸業の導入と展開 (3)両大戦間期における日本の対面アフリカ貿易—日本領事報告を中心として— (4)権沢蕃山の経済論	呉市史編纂室 松山大学大学院 社会人聴講生 松山大学 愛媛大学 岡山大学研究生 岡山大学大学院 岡山商業高校 四国学院大学 岡山大学	志文彦 鷹一 義彦 樹 武正昌 克賢 昌勝 春 千田谷 好川 原田 田川 立 熊三井 相上 前北 神
1994年度 11月5.6日 岡山大学 Vol.60.6	11月5日 (1)明治後期における農村社会事業の展開 (2)旧韓末群山地方における経済状況についての—考察 (3)中国・四国地方の軍政とBCOF (4)地主経営の展開と銀行設立 (5)鉄道建設と経済成長 (6)阿波隔りと徳島藩政について 11月6日 (1)清蒙開拓青少年義勇軍について (2)近世における製塩業カルテルの成立とその展開 (3)隆陽連絡鉄道敷設をめぐる因伯地方の動向 (4)近代代都府市の成立	岡山大学大学院 岡山大学大学院 呉市史編纂室 岡山大学大学院 広島経済大学 徳島地方史研究会 清心女子高校 松山大学大学院 岡山近代史研究会 松山大学	力昭 志昭 治郎 之文 久勝 松武 辰栄 昭一 宏正 宣 赤古 千森 竹三 山熊 在岩 松川 田元 林好 内谷 簡橋

年月日、会場	報告論題	所 属	報告者名
1995年度 11月4.5日 山口大学	11月4日 (1)明治前半期の資本主義化と国立銀行の役割－第百十国立銀行を例として－ (2)近世初中期における丹後湊廻船の活動状況－北前船以前の日本廻船の様相－ (3)日本の近代化と東アジア－東アジア地域史研究序説－ (4)教育についての中日比較研究－両国の「教育法」を中心として－ (5)明治三十六年度全国高等学校入学試験状況と旧々山口高等学校 11月5日 (1)近代における岡山県蚕糸業の地域的動向 (2)初期デュエーター朝の経済・財政政策－ヘンリー七世の財政政策－ (3)イギリスにおける環境保全事業の実例－民間団体の組織と活動－ (4)近世地方書の論理構造－「芸州政基」・「農政礎筆」にみる中期広島藩農政の動態－ (5)十八世紀後半におけるシユレスヴィヒ－ホルシユタインの貴族領	早稲高校 山口大学 崇徳高校 岡山大学大学院 岡山大学 岡山商業高校 鳴門教育大大学院 岡山近代史研究会 尾道短大 山口大学	中 茂 朗 部 和 昭 寺 直 日 小 野 玉 華 立 春 樹 神 立 春 樹 前 昌 義 井 佳 子 大 上 余 利 勝 塚 利 昭 及 矢 倫 生 川 勝 倫 順